

学校教育目標

か
し
く
く
や
わ
し
く
く
た
く
ま
し
く

〈めざす教職員の姿〉

- 児童の心情の把握に努め、一人ひとりに適した支援を考え、主体的協働的で自立する子どもを育てる教職員
- 子どもたちのために研修と研鑽に励み、自ら学び続ける教職員
- 児童の成長に必要な情報を共有し、54名の子ども達を全員で育てチームとして機能する教職員
- 地域を学び、保護者・地域・村教委とともに教育活動を推進する教職員

北小教職員 21 名がチーム

〈児童の実態〉

- 素直で豊かな感性をもち、物事に真剣に取り組もうとしている。
- 学年関係なく関わりが多く、仲良く行動している。
- 自ら問いをもって追究したり、自分で決めて自ら行動したり、自分の考えや思いを積極的に伝えたりすることができにくい。

〈地域の願い〉

- 小規模校のよさを生かし、心も身体も健やかに、たくましさと思いやりをもち、南牧村を愛する人間に成長してほしい。
- 自分から進んで物事に取り組める主体性をもった自立した人間に成長してほしい。
- 統合に向けて連携を進めてほしい。

令和6年度重点

自分を生きる

重点1

自ら学ぶ

自ら問いをもち、考え、自ら行動する子ども

- 探究 学ぶ楽しさの実感
 - 個の学びの充実 一人できる
- 〈具体的な取り組み〉

- ・学びの主体である子どもたちに、任せ、委ね、自分の問いを立て、子どもが主体的に学ぶ授業
- ・必要感のある学習、個別最適化した学習による自立した学び手の育成 単元内自由進度学習の試行
- ・自分と向き合うための、一人になって取り組む学習や活動（まなびの時間 清掃 等）
- ・子どもと教師が夢中になって取り組む、南牧のよさを生かした「生活科、総合的な学習」
- ・連学年授業による学びの広がりや深まり
- ・自分の言葉で考える、自分の言葉で話す・書く活動を通して、思考力、表現力を高める授業
- ・自分の学びのよさと課題を自覚できる振り返り
- ・情報視聴覚機器（タブレット等）の効果的な活用

わ
く
わ
く

重点2

共に生きる

互いの違いを受けいれ、自分や相手を大切に子ども

- 多様な人とのつながり 同調性からの解放
 - 協働 みんなとできる
- 〈具体的な取り組み〉

- ・児童会活動とリンクした全校縦割り班活動（各種行事 清掃等）「北小ロングタイム」 異学年集団での友達
- ・連学年授業による、自己理解と他者理解
- ・自分の困りを伝えることができる場と頼れる、頼ってもらえる関係づくり 対話的な学習 連学年道徳
- ・信州型CS「北小応援団」（学校外の人・もの・ことに出会い学ぶ 交流 わくわくスクール等）
- ・南小との交流、南牧中学校との連携
- ・相手に伝わることば（あいさつ・返事・表現・発表の場）
- ・お互いのよさや特徴を認め合い、多様な学びを創造する「にじいろ学級（休級）」「まなびの教室・ことばの教室サテライト」

重点3

自分を育む

夢や目標に向かって粘り強く取り組む子ども

- 自分を育てるのは自分 自己決定と試行錯誤の保障 他者と違う自分の肯定
 - 楽しく、安心して送ることができる学校生活
- 〈具体的な取り組み〉

- ・自分の願いやめあてをもとに自分で決めて取り組む「朝マラソン(やまのこタイム)」や「クラブ活動(陸上・合唱・スケート)」「学校行事」「日々の学習」
- ・自分の成長や次への課題を見つめ、生き方につなげる支援 道徳学習 キャリア教育 定期的な保健室面談等
- ・誰とでも相談できる環境づくり 相談室・相談員・保健室等 アセスを活用した学級集団づくりと個別面談
- ・職員会議 学年会 授業改善研究、支援員とのミーティング、全国学調とCRT分析、保護者・外部機関との連携による子ども支援